

# 第20回飯田市地域史研究集会

## 飯田下伊那の学制と地域社会

「人づくり」から「ひとなる」へ

# 2023

# 9/9<sup>土</sup> - 9/10<sup>日</sup>

### ■会場

**飯田市役所 C棟3階会議室**

(飯田市大久保町2534)

### ■参加費 500円 (2日間共通)

- ・会場定員あり (先着80名)
- ・オンライン参加も可 ・高校生以下は無料
- ・事前申込制 (電話/FAX/メール)  
下記のQRコードの専用サイトからも  
お申込みいただけます
- ・申込締切り：会場は9月7日 (木)  
オンラインは8月24日 (木)

### ■申込QRコード



### ■関連展示

飯田市立中央図書館にて実施

9月9日 (土) 10:00 ~ 17:00

〈第1部 飯田下伊那における学びのあゆみ〉

講演 木村元 (青山学院大学)

報告 多和田真理子 (國學院大學)

報告 遠山善治 (下伊那農業高校創立100周年記念誌編纂委員長)

報告 田中雅孝 (飯田市歴史研究所)

9月10日 (日) 10:00 ~ 15:00

〈自由論題報告〉

報告 春日宇光 (飯田市教育委員会)

報告 伊藤悠 (飯田市歴史研究所)

〈第2部 学びの歴史を記録し引き継ぐ〉

報告 坂下力 (元千代小学校)

報告 田添莊文 (竜丘小学校開校150周年記念誌編集責任者)

報告 松島高根 (下市田学校応援隊)



飯田市歴史研究所

〒395-0803 長野県飯田市鼎下山538

TEL 0265-53-4670 FAX 0265-21-1173 E-mail iih@city.iida.nagano.jp

写真：飯田市立追手町小学校



# 第20回飯田市地域史研究集会

## 飯田下伊那の学制と地域社会

「人づくり」から「ひとなる」へ

地域の中で学び育ち一人前になることを「ひとなる」といいます。そのあり方を大きく変えたのが、近代の学校の登場でした。

以来一五〇年、学校と地域はどのように関わり、人びとの学びを支えてきたのでしょうか。

今回の研究会では、飯田下伊那における学びの歴史をたどるとともに、歴史を記録し未来へつなぐ今の取り組みにも目を向け、あらためて「ひとなる」この意味を考えます。



竜丘小学校校舎落成記念運動会（明治38年10月11日）  
〔「木下紫水物語」（2022年）より転載〕



下伊那農学校 顕微鏡による病害虫観察（昭和2年）  
〔下伊那農業高校所蔵〕



下伊那農業高校高森分校（旧下市田学校）での授業  
〔下伊那農業高校所蔵〕

### ■アクセス

高速バス 各バス会社にて予約

（東京から）バスタ新宿 → 飯田駅前 4時間  
（名古屋から）名鉄バスセンター → 飯田駅前 2時間

自家用車 中央自動車道

（東京から）八王子IC → 飯田IC 3時間30分  
（名古屋から）名古屋IC → 小牧JCT → 飯田IC 1時間30分

鉄道 JR飯田線

（豊橋から）特急ワイドビュー伊那路 2時間30分  
（辰野から） 2時間

会場へのアクセス

飯田駅 → 徒歩15分  
飯田IC → 車で15分

### ■会場周辺図



### ■プログラム

九月九日【土】一〇時～一七時

〈第一部〉飯田下伊那における学びのあゆみ

講演 地域と学校の関係史

―地域としての学校／学校としての地域 木村元（青山学院大学）

報告 小学校の設置・運営と地域社会

―飯田下伊那の事例にそくして 多和田真理子（國學院大学）

報告 地域と共に歩む下伊那農業高校

―遠山善治（下伊那農業高校創立100周年記念誌編集委員長）

報告 「松下千尋日記」にみる農村青年の自己形成

田中雅孝（飯田市歴史研究所）

質疑応答 意見交換

九月二〇日【日】一〇時～一五時

〈自由論題報告〉

報告 飯田における百済系土器とその意義

春日宇光（飯田市教育委員会）

報告 明治・大正期の松川入における河川と山林利用

伊藤悠（飯田市歴史研究所）

〈第二部〉学びの歴史を記録し引き継ぐ

報告 満州開拓慰霊碑が子どもたちに遺したもの

―千代小学校6年生の学び 坂下力（元千代小学校）

報告 記念誌の制作意義と学校に残したい資料について

田添莊文（竜丘小学校開校150周年記念誌編集責任者）

報告 住民による下市田学校の再生 松島高根（下市田学校応援隊）

質疑応答 意見交換